

南米旅行顛末

k.s

1、地球の裏は遠かった

体力が少し残っている今のうち南米を旅行しようと考えて南米の春先で雨季の前をねらい昨年10月末の出発と決めて妻とツアー旅行にエントリーした。初めての南米でありイグアスとペルーに加えブラジルとアルゼンチンを含む欲張りなコースを選択した。

日程（航空機）

成田・・・ヒューストン・・・リオデジャネイロ	22時間
リオ・・・ブエノスアイレス・・・イグアス	6時間
イグアス・・・ブエノス・・・リマ(ペルー)	7時間
リマ・・・クスコ・・・リマ	3時間
リマ・・・ナスカ・・・リマ	3時間
リマ・・・ロス・・・成田	20時間

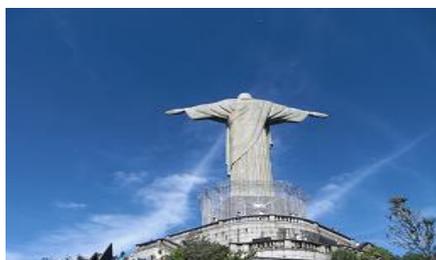
実飛行時間 61 時間にトランジット+審査時間をいれると 80 時間を越えている往復時間は 3 日以上の旅だった。



2、街並み観光

「リオデジャネイロ」・・・1月の河

キリスト像で有名なコルコバードの丘から市街が一望できる小さな湾とコパカバーナ、イパネマビーチ



コルコバード

オフィス街、ダウンタウンと自然が一体となった都市、街中にはサッカー場が目立った

「ブエノスアイレス」

タンゴ発祥のボカ地区、7月9日大通り、レコレータ墓地を見学、旅行者のトラブルが頻発とのこと貧富の差が感じられた。夜のタンゴショーは民族楽器の縦笛(サンポーニャ)の演奏が素晴らしかった。



ボカ地区

「イグアス」

イグアスの滝・幅3km、落差80m水煙と轟音すごい迫力見る価値あり滝の落ち口まで見学歩廊ありこれも迫力満点、ブラジル、パラグアイ、アルゼンチンの3カ国境 イグアスの町は綺麗な観光都市



「ペルー」・リマ・クスコ・マチュピチュ・ナスカ

ペルーは面積128万km²(日本の3.5倍) 人口2800万 スペイン語 通貨ソール 首都リマはアンデス山脈の太平洋側スペイン統治の色濃い街だった。日本大使館占拠事件当時のフジモリ大統領とその後の政変で一寸気になったが親日的な雰囲気の中で観光ができた 街の中は高級住宅地とスラム街隣りあわせで高級住宅地の門扉、防犯の格子と鉄条網は異様な光景だった。

クスコはリマから南東600kmにありインカ帝国の首都で標高3,500mの高地である旅行者のほとんどが高山病にかかるらしい

マチュピチュはクスコの北150km標高2500m

3、プレインカ文明

インカ帝国は13世紀からスペインに征服された16世紀まで続いた、現在の文化遺産は帝国時代のものが多くインカ帝国以前のプレインカ文明の解明が進んでいる3000年から3500年前の文明の遺産も発掘されている、日本の考古学者も参加している。

メキシコ・ユカタン半島を中心に栄えたマヤ文明も発掘された骨からアジア(蒙古)からの人種といわれている、インカもマヤも祖先は同じなのか？

今から1万年前最新の氷河期が終わったとされている氷結しているベーリング海を渡り2万キロ以上の民族移動があった。

故郷に何があったのか、何が目的か、なぜそんな苦勞をしたのか・・・そしてエジプト、中国とは別のところで独自の文明が生まれ大航海時代に戦いに敗れた。



マチュピチュ

4、アクシデント

腰痛発症

成田からヒューストンの途中左足に痺れが出た。ヒューストン空港で6時間の街合わせロビーで休み一安心ヒューストンからリオデジャネイロ10時間のフライト痛み再発、椅子に座ると痛み立つと痛みが消えるリオで一泊ブエノスアイレスで一泊イグアスの滝見学辺りから痛みが増してきた、持参した痛み止めも残り少ない心配になってきた

医者とのコンタクト

座る事が苦痛になり食事もままならない状況
団体旅行で迷惑にならない方向で添乗員と打合せた。
病院にかかるのは通訳を雇い病院の費用と所要時間はわからないとのこと(すぐ診察、治療は無理だろう)
それでもお願いする、旅行6日目リマに到着、市内観

光をやめて医者診察、治療をうける事にした。
グループ旅行は当然離脱することを心に決めた。

救いの神 現地ガイド登場

リマ周辺の現地ガイドが素晴らしかった、ガイド以外にもその地をよく知り尽くしたマイスターである。
現地ガイドの具志堅さんがてきぱきと手配を始める
旅行保険の補償内容を確認しアドバイスしてくれる
病院は信頼性が少なく費用は高いゆえ往診に決定
医者と容態の確認、診察日時、ホテルの手配などなど
翌日に往診が決まり診断次第で次の手順を決めることにした、何としても帰国できること願った。

赤ひげ先生

ホテルに現れたファン・ホセ・ボニジャ先生小太りの50歳前後のペルー男性、日本語が達者で問診、病歴症状を確認のあとベットで各種診察を受けた。
注射一本と痛み止めの薬をいただく今後の連絡のため伺うと名刺を出した「内科」専門で阪大で勉強した大使館占拠事件では人質の診察、処置で医療のリーダーを務めたそうだ、内科の医者が整形外科程度を診るのはペルーでは当たり前とのことだった。
半日ほどで痛みも取れて椅子に座れるようになった
3日間リマに滞在し療養し予定通りの観光を続ける添乗員と連絡し帰りのスケジュール、チケットの手配をお願いした エコノミーでは再発の心配が嫌だった。

旅行保険

再度ボニジャ先生の診察と診断書を頂くポイントは
① フルフラットの状態が必要(ビジネス以上)
② 介護者が必要(妻同行)との診断である
ツアーと別行動でリマ・ロス・成田をAAラインのビジネスクラスを夫婦で利用し帰国した、腰痛のチケットのため車椅子が準備され、審査も別窓口でいたってスムーズな復路となった。
帰国後、病院で腰痛と下血の治療と検査をした。
保険の対象は現地医療、ホテル、交通費、帰りのチケット代、帰国後180日間の国内医療費が対象であった。保険申請と支払いは至ってスムーズだった。
海外旅行で心配なのは、事故・盗難・疾病など色々あるが旅行保険で相当カバーできることがわかった。
保険加入と現地での証明がポイントであろう。